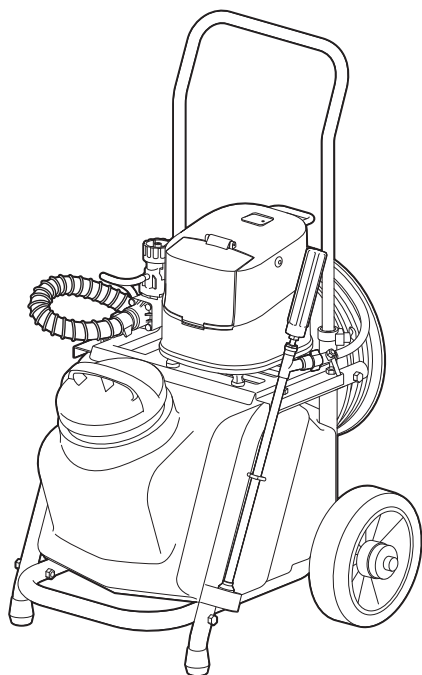




動画をご覧ください。



動画で見る

- ・ 動画の内容は予告なく変更・削除されることがあります。
- ・ 通信料金はお客様のご負担となります。

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
ございました。

- ・ ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- ・ お読みになった後も保管してください。
- ・ 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

保証書に購入店などの記載がない場合は、レシートなどを貼り付けてください。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。

仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

乱丁、落丁はお取り換えします。

SMS-360RT25



充電式噴霧器

取扱説明書（保証書付）

用途

園芸用・農業用薬剤の散布または散水

用途以外の目的に使用しないでください

目次

はじめに

ドリフト対策	2
各部の名称と付属品	4
安全上のご注意	6

準備

バッテリーと充電器	14
組み立て	17
薬液を入れる	19
移動する	21

使用方法

作業前点検	22
噴霧する	23

保守・点検

お手入れと保管	26
整備	28
「故障かな？」と思ったら（故障と処置）	30

その他

仕様	32
パーツのご注文は	34
保証書	36

ドリフト対策

もっと安全・安心に

(飛散)

ドリフトの少ない農薬散布を！

食品衛生法が改正され、農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されました。今まで残留農薬基準値が決められていなかった農薬に、0.01 ppmという一律の厳しい基準が設けられ、この定められた基準を超えて農薬が残留する食品は、出荷停止・販売禁止・回収等の対応が求められるようになりました。

農薬の適正使用はもちろんのこと、散布する薬剤が周りの圃場にドリフト（飛散）しないよう、これまで以上に気を付ける必要があるとともに、地域一体となった取り組みが大切となります。

ポジティブリスト制度とは

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則として禁止する制度です。一定量とは「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01 ppmとなっています。（いわゆる一律基準）平成18年5月29日より施行

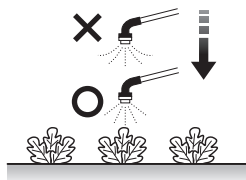
※詳しくは厚生労働省のホームページなどをご参照ください。

散布しようとする作物以外に農薬がドリフト（飛散）しないよう
散布時には細心の注意をはらいましょう。



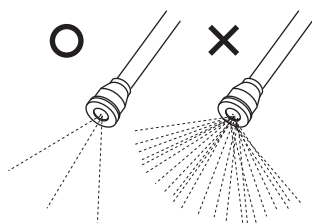
風の弱いときに風向きに注意して散布しましょう。

農薬ドリフトの最大要因は風です。風のない日や風の弱いときに散布しましょう。散布中は常に風の状況を把握して注意することが必要です。



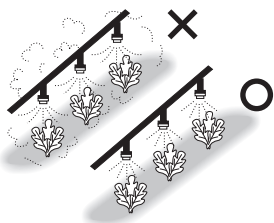
方向や位置に注意して散布しましょう。

できるだけ作物の近くから作物だけに散布するよう心掛けます。特に圃場の端部では外側から内側に向けて散布するなど、特に注意が必要です。



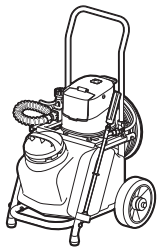
適正なノズル・圧力で散布しましょう。

細かい散布粒子のノズルを使用するほど、また 散布圧力を高めるほどドリフトしやすくなります。必要以上の圧力で散布しないよう注意が必要です。また、ドリフトの少ないノズルに取り替えることも効果的です。



適正な量を散布しましょう。

必要最小限の量と区域で散布を行い、無駄な散布をしないように心掛けます。散布量が多くなるとドリフトする割合も大きくなります。



薬剤タンクやホースは洗が残しがないよう充分に洗浄を行い、洗浄水は適切に処分しましょう。

薬剤タンクやホースに使用した農薬が残っていると、次の散布時に作物に薬害が生じたり、収穫物に農薬が残留してしまうなど、思わぬ事態につながるおそれがあります。

地域一体となった取り組みが大切です。



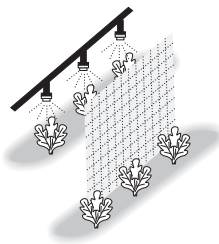
周りの作物にも登録のある農薬を使用しましょう。

より多くの作物に適用があり、収穫近くまで使える様な農薬を選定することで、飛散した場合のリスクを低減することができます。



決められた農薬の使用法を守りましょう。

使用前には農薬の使用法を確認し、散布できる作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数を必ず守って使いましょう。また、圃場ごとに使用した農薬や作業内容を必ず記録しておきましょう。



境界区域では農薬散布を控え、周りの作物をネットやシートなどで遮断したり一時的に覆いましょう。

周りの圃場で収穫直前の作物がある場合は、散布日や収穫日を変更するなどの調整をしましょう。

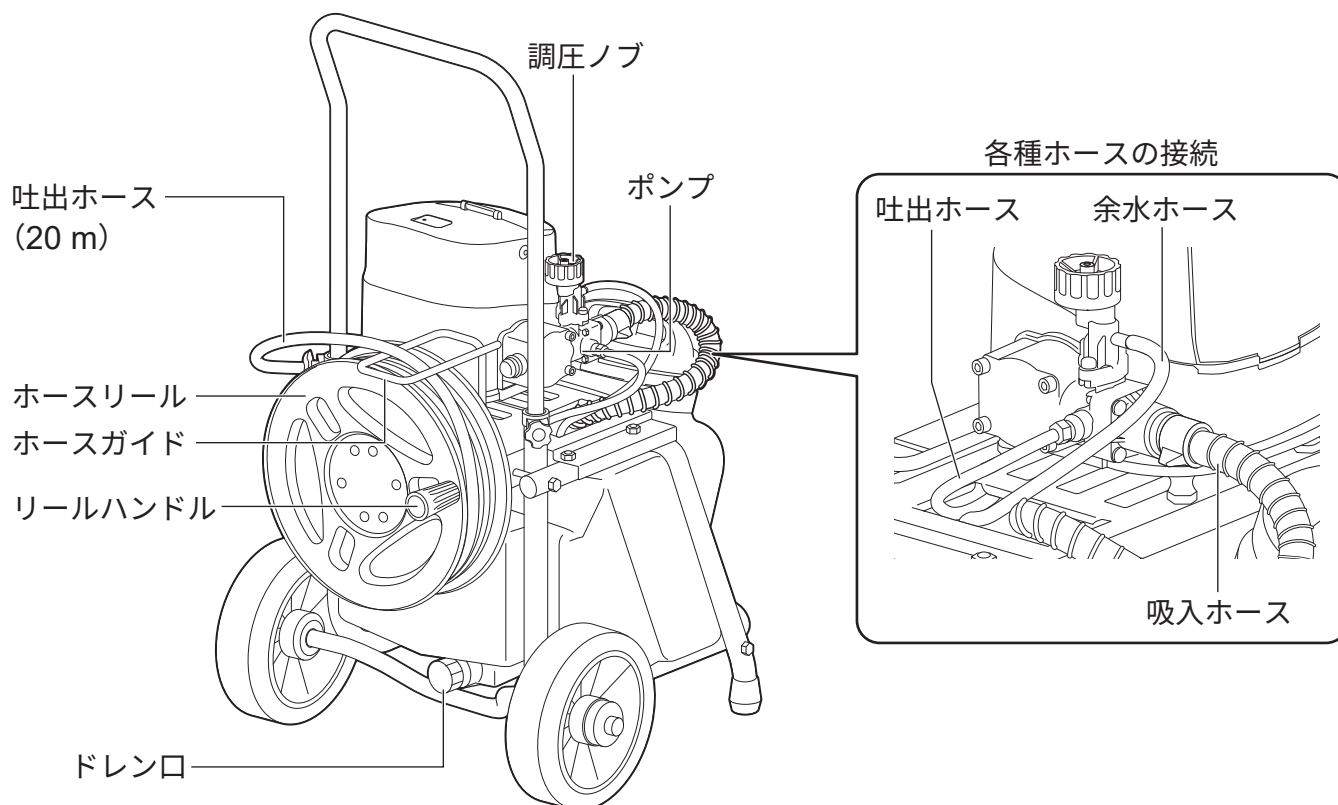
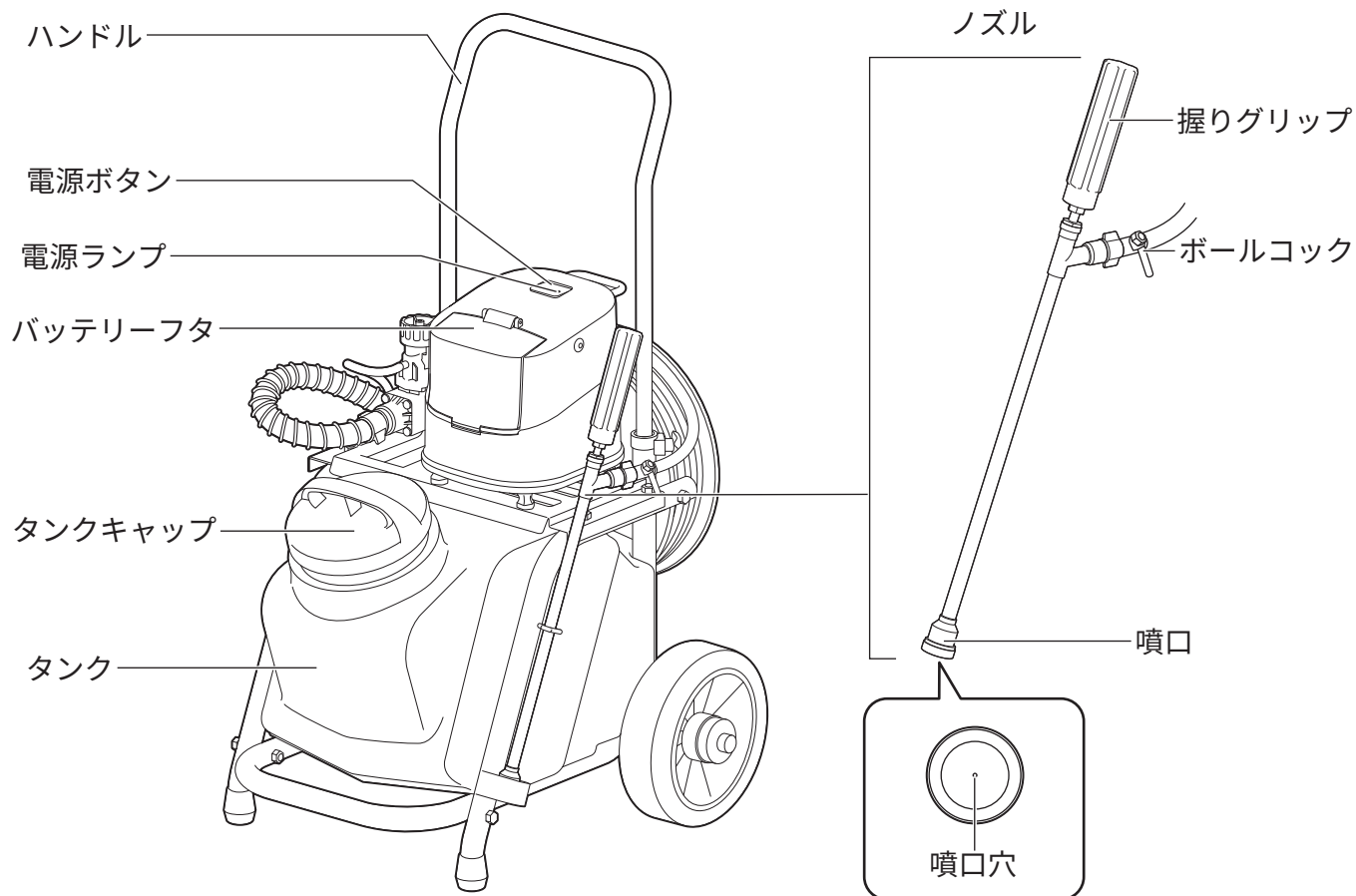
次の場合は
特に注意が必要です。

- ◇圃場同士の距離が近いとき
- ◇隣の食物作物の収穫が近づいてきたとき
- ◇飛散が起こりやすい散布方法・条件のとき

農薬散布することを周りの生産者に伝え、
日頃からコミュニケーションをとるなど、
地域の農業従事者同士の連絡を密にしておくことが重要です。

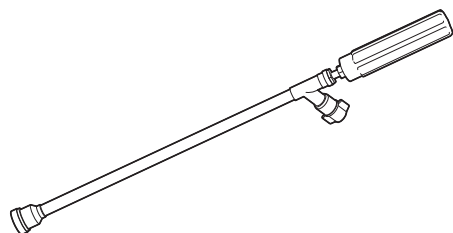
各部の名称と付属品

1. 各部の名称

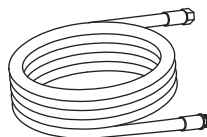


2. 付属品

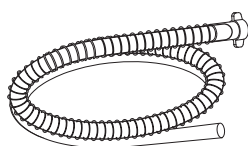
同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。



☐ ノズル (54 cm)



☐ 吐出ホース (φ6×20 m)



☐ 吸入ホース (φ10×0.7 m)



☐ ストレーナー小



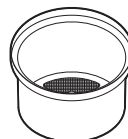
☐ ストレーナークリップ



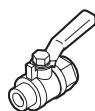
☐ ジュビリバンド (φ20)



☐ 余水ホース (φ7×0.8 m)

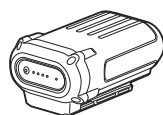


☐ ストレーナー

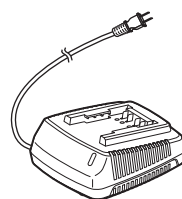


☐ ボールコック

☐ 取扱説明書 (本誌)



☐ 36 Vバッテリー (2.5 Ah)
〈PA-334〉2個



☐ バッテリーチャージャー36 V
〈KBC-360〉

36 Vバッテリー (2.5 Ah) とバッテリーチャージャー36 Vは付属していない機種もあります。

安全上のご注意

使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用する方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

■ 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷を負うおそれの高い内容です。
 警告	人が死亡、または重傷を負うおそれのある内容です。
 注意	人が傷害を負う、および本機やほかの財産に物的損害が発生するおそれのある内容です。

■ お守りいただく内容を区分して説明しています。

 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

■ その他の表示

 ここがポイント！ 正しい操作のしかたや守っていただく要点などを示しています。

■ 本機に関すること

 危険
 爆発物や可燃性の液体、ガス、粉じんのある場所で使用しない
 傾斜地や崖、また溝や用水路など、本機が転倒・落下するおそれがある場所では、絶対に使用しない 思わぬ事故につながります。

 警告
 本機に幼児・子ども、動物が触れないよう、隔離措置をして安全な場所で使用する
 本機的能力に合った負荷（運転時間など）で作業する 無理な作業は事故の原因になります。また、作業能率が悪くなります。
 作業に適した服装で作業する 水（薬液）が飛び散る場合があるため、ぬれても良い服などで作業してください。 （22ページ「2. 服装について」参照）
 ノズルを人や動物に絶対に向けない ケガの原因になります。
 ノズルはしっかりと持つ 電源を入れるとすぐにノズルから液が噴射する可能性があります。

警告

-  体調が少しでも悪くなったときは、すぐに医師の診断を受ける
-  運転中はガソリンやスプレーなど可燃性の物質を本機の近くで使用、放置しない
引火し、火災の原因になります。
-  運転中は本機に物をかぶせない、燃えやすい物を近づけない
モーターの熱により過熱し、発火や故障の原因になります。
-  運転中および運転直後は本機に触れない
モーターの熱によりヤケドのおそれがあります。
-  雨の中やぬれた場所、湿った場所で使用しない
感電や故障の原因になります。
-  本機に水（薬液）をかけない
感電や漏電による事故やケガの原因になります。
-  保管およびお手入れのときは必ず電源を切り、本機からバッテリーを取り外す
取り外したバッテリーに水や薬液がかからないようにする
バッテリーを本機に取り付けたまま行くと、事故の原因になります。
-  本機を雨の中やぬれた場所、湿気の多いところに保管しない
-  本機を使用しないときは、屋内に安全に保管する
子どもの手の届かない所、湿気が少ない所に保管してください。
(27ページ「2. 保管」参照)
-  定期点検を行う
点検が不十分だと、事故の原因になります。
-  タンク内に薬液を入れたまま保管しない
使用後は、タンク内の薬液を抜きよく洗浄する
故障の原因になります。

-  直射日光の当たらない場所に保管する
故障の原因になるばかりでなく、思わぬ事故のおそれがあります。
-  修理技術者を除き、本誌記載内容以外の分解や修理、改造を絶対に行わない
異常動作してケガをするおそれがあります。
-  点検・整備の際は、バッテリーを本機から取り外す
本機が誤始動し、ケガの原因になります。

注意



次のときは本機を使用しない

- 疲れているとき、身体が不調のとき
- 酒類や薬を飲んで正常な運転操作ができないとき
- 夜間や悪天候などで視界が悪いとき
- 妊娠しているとき



握りグリップは締め過ぎない
グリップ割れの原因になります。



各接続部にパッキンが付いているか確認する
水漏れの原因になります。



吐出ホース延長時は、全長50 m（延長30 m）以内とする

吐出ホースの延長は、噴霧状態が著しく悪化する原因になります。

市販品を使用するときは、薬剤用高圧スプレーホースで、なおかつ耐圧性などが充分なものを使用してください。



本機は平たんな場所に置き、動かないようにする



ストレーナーはしっかりと取り付ける
吸入不良の原因になります。



タンク内部やストレーナーは常にきれいな状態を保ち、必ず付属のストレーナーを取り付けて使用する

砂や異物をポンプが吸い込むと、吐出量・圧力の低下や吸水しないなど、性能に悪影響を及ぼします。



ノブボルトは必ず穴に入れて固定する
穴に入っていないと不用意に抜け、事故の原因になります。



1分以上空運転しない

ノズルから水（薬液）が出なくなれば直ちに電源を切ってください。故障の原因になります。



40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しない

安全性を損なうおそれがあります。



本機を園芸用・農業用薬剤の散布または散水以外に使用しない



火気の近くで使用しない、置かない



作業前に、必要な点検を必ず行う

点検を怠ると、薬液が漏れて思わぬ事故につながります。

（22ページ「1. 作業前点検」参照）



始動時は調圧ノブを「高圧」側にしない
モーターロックによるブレーカー作動や故障のおそれがあります。



段差を走行する際は、本機が転倒しないよう十分に注意する



握りグリップを締め切り状態で長時間放置しない

故障の原因になります。



動かなくなったり、異常がある場合は事故防止のため、直ちにご使用を中断して、バッテリーを取り外す

そのまま使用されますと、感電や漏電・ショートによる火災や液漏れのおそれがあります。本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。



ホースは後ろ方向へ強く引かない
タンク内の薬液が少ないときなど、本機が倒れるおそれがあります。



タンクキャップのブリーザー穴が詰まっていないか確認する

散布時にタンクがへこみ、破損するおそれがあります。



屋外に長時間放置しない



保管の際は、タンク内の液を完全に抜く
ストレーナーがさびる原因になります。



作業後は器具や着衣類をすべてよく洗う
作業後も入浴するか、手、足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする

⚠ 注意

- 
作業後に薬剤をポンプ内に残したまま放置しない
 薬剤の成分の影響でポンプが固着し噴霧できなくなることがあります。
 作業後は必ずポンプ内から噴口まで通水し水洗いをしてください。
 (26ページ「1. お手入れ」参照)
- 
作業後はバッテリーを取り外し、タンク内の残った薬液を排出して十分に水洗いする
 水洗い後は握りグリップを直射状態にしてホース内の圧力を抜く
 薬剤がポンプ・ホース・ノズル内に残っていると薬剤が固まったり、パッキンなどが劣化したりして、故障の原因になります。
- 
作業後は必ず電源を切り、バッテリーを取り外す
- 
ハンドルで本機をぶら下げたり、ハンドルに無理な力をかけたりしない
- 
作業後はポンプ・ホース・ノズル内に液を残さない
 凍結によりポンプ故障の原因になります。
- 
ストレーナー小はこまめに清掃する
 ゴミなどが詰まると、吐出不良などの不具合が発生するおそれがあります。
- 
吸水弁は強く押さない
 破損のおそれがあります。
- 
分解するときは、パッキンなど噴口内の各部品を無くさないように注意する
- 
噴口部を清掃するときは、必ず電源を切り、バッテリーを取り外す
 顔面に薬液がかかるおそれがあります。

■ バッテリー・充電器に関すること

⚠ 危険

- 
バッテリーは、本機および指定の充電器および機器のみに使用する
 指定の充電器および機器以外に使用すると、バッテリーに異常な電流が流れるなどの可能性があり、発熱、破裂、発火の原因になります。
- 
水・海水などでぬらさない
 発火または故障のおそれがあります。
- 
バッテリーを直射日光の当たる場所、炎天下の車内、熱源のそばなど高温になる場所で使用または放置しない
 バッテリーが漏液するおそれがあります。
- 
バッテリーを分解・改造・破壊しない
 漏液、破裂、発火のおそれがあります。
- 
バッテリーを火の中に投入しない、加熱しない、強い衝撃を与えない
 発熱、破裂、発火の原因になります。
- 
弊社指定の充電器・バッテリーを使用し、弊社指定の充電条件を守る
 その他の充電条件（指定以外の温度、指定以外の高い電圧や大きな電流、または改造した充電器など）で充電すると、発熱、破裂、発火の原因になります。
- 
充電器や機器への取り付けがうまくいかない場合は無理に取り付けない
 バッテリーはプラスとマイナスの向きが決められています。充電器にプラスとマイナスを逆に取り付けると、バッテリーが逆に充電され内部で異常な反応が起こり、バッテリーを漏液、発熱、破裂、発火させる原因になります。
- 
火のそばや、炎天下の自動車内などで充電しない
 充電は使用環境温度範囲（32ページ「1. 主な仕様」参照）で行ってください。
 バッテリーを発熱、破裂、発火させる原因やバッテリーの性能や劣化につながるおそれがあります。

危険

-  電源プラグに合わないコンセントやさし込みの緩いコンセントは使用しない
また、電源プラグは改造しない
火災や感電の原因になります。

警告

-  バッテリーと充電器の接続部、充電端子部や内部、電源プラグに金属製の工具やピンをさし込まない
ゴミを付着させない
ショートやトラッキング※により発煙、発熱、破裂、発火し、感電、ヤケドの原因になります。
※トラッキング…コンセントとプラグの隙間にほこりが溜まり、そのほこりが空気中の湿気を吸収することで、漏電し発火する現象のこと。
-  電源プラグは根元まで確実にさし込む
感電や発火の原因になります。
-  電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜く
電源コードがショートし、発火や感電の原因になります。
-  充電器の電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く
トラッキングが発生して発火の原因になります。
-  バッテリー・充電器は、乳幼児・子どもの手の届かないところに保管する
-  バッテリーは、所定の充電時間以上充電しない
充電が所定の時間を超えても完了しない場合は、充電をやめる
バッテリーが発熱、破裂、発火するおそれがあります。
-  充電器は指定のリチウムイオンバッテリーのみに使用する
他のバッテリーの充電や充電以外の用途には使用しないでください。充電器や接続されたものが発煙、発熱、発火し、感電、ヤケドのおそれがあります。

警告

-  **必ず指定された電源を使用する**
(32ページ「1. 主な仕様」参照)
他の電源で使用すると、充電器に過大電圧が加わったり過大電流が流れたりし、バッテリーの漏液、発熱、破裂、発火や、充電器の発煙、発熱、発火による感電、ヤケドの原因になります。
-  **ぬれた手で充電器の電源プラグの抜き差しをしない**
感電や発火の原因になります。
-  **バッテリーは本機に確実にしっかり取り付ける**
取り付けが不十分な場合、外れて事故の原因になります。
-  **電源コードを持って充電器を運ばない**
電源コードを引っ張らない、傷付けない、無理に曲げない
電源コードを熱、油、角のある所、動くものに近づけない
電源コードの上に物を載せない
電源コードの破損やショートにより、発煙、発熱、発火し、感電、ヤケドの原因になります。
-  **本機の組み立てや付属品の取り付けや取り外しの際は、必ず電源を切り、本機からバッテリーを取り外す**
バッテリーを取り付けたまま行くと本機が不意に作動し、事故の原因になります。
-  **本機にバッテリーを取り付ける前に、電源が切れていることを必ず確認する**
電源を入れたままバッテリーを取り付けると不意に作動し、事故の原因になります。
-  **使用後および点検、保管時は必ず電源を切り、本機からバッテリーを取り外す**
バッテリーを取り付けたまま行くと本機が不意に作動し、事故の原因になります。

-  **バッテリー液が目に入ったときは、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗った後、医師の治療を受ける**
放置すると、目に障害を与える原因になります。
-  **コンセントや配線器具の定格を超える使い方をしない**
発火のおそれがあります。
-  **バッテリーや充電器を電子レンジや高压容器に入れない**
急に加熱されたり、密閉状態が壊れたりして発熱、破裂、発火の原因になります。
-  **使用時や充電時、保管時にバッテリーからの異臭、発熱、変色、変形、その他、今までと異なることに気がついたときは、本機あるいは充電器よりバッテリーを取り外し使用しない**
発熱、破裂、発火の原因になります。
-  **バッテリーが漏液したり異臭がしたりするときは直ちに火気より遠ざける**
漏液した電解液に引火し、破裂、発火の原因になります。
-  **運搬時はバッテリーが動かないようにしっかりと固定し、端子部に金属などが接触しないように保護する**
破損や金属端子のショートのおそれがあります。

注意

-  バッテリー液が皮膚や衣服に付着したときは、すぐに水道水などのきれいな水で洗い流す
皮膚がかぶれるなどのおそれがあります。
-  バッテリーの上に可燃物を載せない
バッテリーを覆わない
バッテリーが発熱、破裂、発火するおそれがあります。
-  充電器の上に物を載せない
落下しやすいところに置かない
外部の力や衝撃で充電器の内部回路が破損して、使用時に発煙、発熱、発火し、感電、ヤケドの原因になります。
-  充電器およびバッテリーの端子に手を触れない
感電のおそれがあります。また、充電器およびバッテリーが静電気により破損する可能性があります。
-  湿気やほこりの多い場所で使用または保管しない
発煙、発熱、発火し、感電、ヤケドのおそれがあります。
-  充電中に異常を感じたときは、直ちに電源プラグをコンセントから抜く
発熱、破裂、発火し、感電、ヤケドの原因になります。
-  充電時以外は、充電器の電源プラグをコンセントから抜く
絶縁劣化による漏電、発火、感電の原因になります。

■ 薬剤に関すること

危険

-  農薬以外の薬剤は使用しない
-  使用する薬剤の取扱説明書をよく読み、正しく使用する
記載されている倍率に従い、薬品を正しく希釈してください。希釈や調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になるおそれがあります。
-  薬剤に被爆した場合（誤って飲用した、皮膚に接触したなど）は、薬剤の取扱説明書に従い、適切な処置を行うか、医師の診断を受ける
-  薬剤が人体、家畜にかからないように、また、川、池、沼などを汚染しないように、風向き周囲の状況を充分に確認のうえ使用する
-  薬剤を変える場合は、必ず前の液を完全に抜き、タンク内やポンプを充分洗い流してから、新しい液を入れる
薬剤が混ざると、化学変化をおこすおそれがあります。
-  残った薬剤や散布器具や容器を洗浄した水は、河川や水源地、下水などに流さない
薬害のない方法で自分の圃場内で処理してください。

警告

-  使用する薬剤の正しい使用方法を必ず守る
ゴーゴーサン・トレファノサイドなど一部の薬剤は使用方法を誤ると、故障の原因になるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
-  薬剤を使用するときは、本誌に記載されている主要薬品適合一覧表を確認する
強酸性・強アルカリ性の液体、ベンジン・ガソリンなどの可燃性の液体、溶剤などは絶対に使用しないでください。爆発するおそれがあります。
ゴキブリ・ハエ・蚊などに用いる殺虫剤・防疫用薬品、下水・便所などに用いる消毒剤、畜産用薬品は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。

注意

-  水和剤、石灰硫黄合剤は、バケツなどの容器でよく溶かし使用する
また、作業中も沈殿しないようによく攪拌する
本機の寿命が短くなるおそれがあります。
-  薬剤は必ず調合してからタンクに入れる
-  薬剤が体に付着したときはよく洗い流す
薬剤は有害です。取り扱いについては充分注意をしてください。
-  少しでも異常を感じた場合は、速やかに使用を中止し、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ相談する
一部の薬剤は正しい使用方法を守った場合でもタンクなどを変色させたり、変形させることがあります。機能上は問題ありません。
-  幼児や子どもが触れないように保管する
薬剤は有害です。保管方法については薬剤の取扱説明書に従ってください。

バッテリーと充電器

1. 充電について

お買い上げ時や長期間充電しなかった場合は、ご使用前に満充電になるまで正しく充電してください。バッテリーがすでに満充電のときは、充電器のランプは赤点灯（充電中）にならず緑点灯（満充電）のままです。（15ページ「充電器のランプの見かた」参照）



ここがポイント！

- バッテリーの温度が適切でないと充電ができないことがあります。バッテリーが高温の場合は、風通しの良い日陰などに置いていったん冷ましてください。
- 充電中にバッテリーや充電器が温かくなりますが、異常ではありません。

1.1 バッテリーを長持ちさせるには

- 本機の力が弱くなってきたと感じたら使用を中止し、充電してください。
- 満充電したバッテリーを再度充電しないでください。
- 充電は使用環境温度5 ～ 40℃の範囲で行ってください。
- バッテリーの保管場所にご注意ください。（27ページ「2. 保管」参照）
- 長期間ご使用にならない場合、バッテリーは充電してから保管してください。



バッテリーの寿命について

- バッテリーは充放電を繰り返すと次第に容量が少なくなり、交換が必要になります。これはバッテリーの特性によるものであり、故障ではありません。満充電後も作業できる時間が短くなるようであれば、バッテリーを交換してください。
- リチウムイオンバッテリーは、メモリー効果（継ぎ足し充電を繰り返すと、バッテリー残量が見かけ上、低下する現象）がないため、タイミングを気にすることなく、いつでも継ぎ足し充電ができます。
- 寒い環境ではバッテリーの容量が少なくなり、作業時間が短くなることがあります。暖かくなる（バッテリーが適温になる）と回復します。
- バッテリーは使用しなくても自然に放電します。自然に放電した分は、使用前に充電すれば回復します。

1.2 バッテリーの回収について

使用済みバッテリーはリサイクルのため回収しております。弊社窓口（裏表紙参照）までお問い合わせいただくか、購入店またはお近くの弊社製品お取扱店へご持参ください。



リチウムイオンバッテリーは
リサイクルへ

Li-ion



ここがポイント！

- 本機および充電器を廃棄するとき、バッテリーを取り付けたまま一般家庭ゴミとして廃棄しないでください。

1.3 その他の注意事項

- バッテリーからの異臭や液漏れがないか定期的に確認してください。
- 延長コードを使用するときは、十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。
〈使用できる延長コードの目安〉
太さ（導体公称断面積）…2.0 mm²
長さ…30 m まで
- バッテリー端子が汚れたら乾いた布で拭き、端子をきれいにしてからご使用ください。機器との接触が悪いと、電源が切れたり充電されなくなったりすることがあります。

バッテリーと充電器

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

1.4 充電のしかた

1) 充電器の電源プラグをコンセントにさし込む

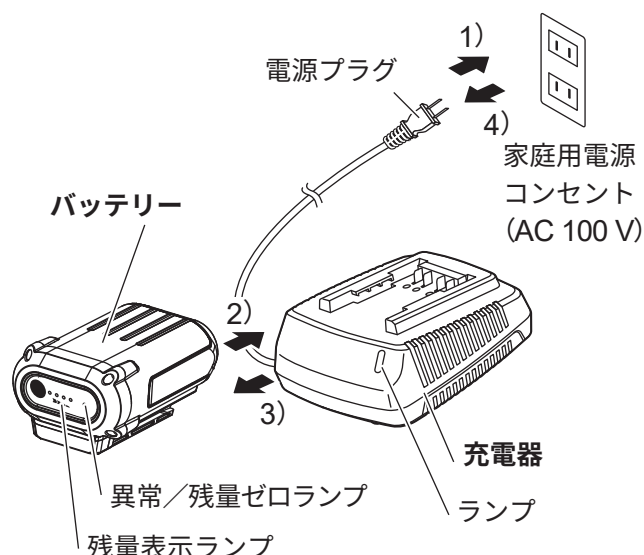
充電器のランプが緑点灯します。

2) バッテリーを充電器にさし込む

充電器のランプが赤点灯に変わり、充電開始をお知らせします。バッテリーの残量表示ランプもバッテリー残量に応じて点滅します。
ランプが赤点灯から緑点灯に変われば充電完了です。

3) 充電が完了したら、バッテリーを充電器から取り外す

4) コンセントから充電器の電源プラグを抜く



■ 充電器のランプの見かた

充電器のランプ	状態
緑点灯 緑点滅 消灯	充電していない
赤点灯	充電中
赤点滅	故障

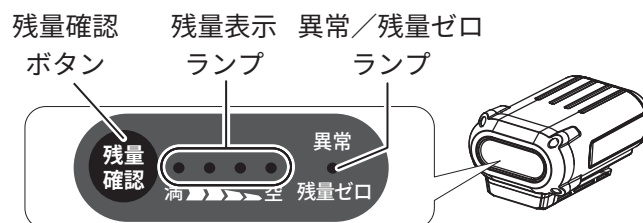
注1) 充電器のランプが緑点灯から赤点灯に変わらないときは、すでに満充電の可能性があります。バッテリーの残量確認ボタンを押し、バッテリー残量を確認してください。

注2) 充電器が緑点滅のとき、またバッテリーの異常/残量ゼロランプが赤点滅のときは、バッテリーの温度異常です。バッテリーが適温になるようにしてください。

注3) 充電器のランプが点灯しないとき、または赤点滅のときは、充電器の故障が考えられます。本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

■ バッテリーのランプの見かた

バッテリーの残量確認ボタンを押すと、バッテリー残量に応じて残量表示ランプが緑点灯します。



残量表示ランプ	異常/残量ゼロランプ	状態
○点灯 ●消灯	☀点滅 ●消灯	
○ ○ ○ ○ 2~4個点灯 ● ● ● ● ●消灯 満 空 使用可能		
● ● ● ● 1個点灯 ● ● ● ● ●消灯 満 空 充電が必要		
● ● ● ● 消灯 ☀ 赤点滅 ●消灯 満 空 使用不可		

注1) 異常/残量ゼロランプが赤点滅のときは、バッテリーの温度異常です。バッテリーが適温になるようにしてください。

注2) バッテリーが高温（暑い自動車内に保管したときなど）の場合、残量があっても動作しないことがあります。風通しの良い日陰などに置いてバッテリーを冷ましてください。

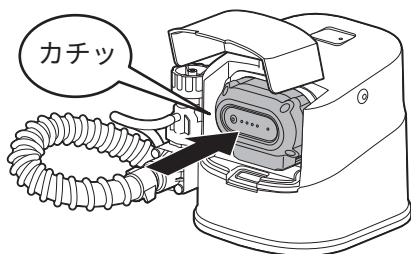
注3) 残量確認ボタンを押しても残量表示ランプが点灯しないときは、故障が考えられます。本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

バッテリーと充電器

2. バッテリー

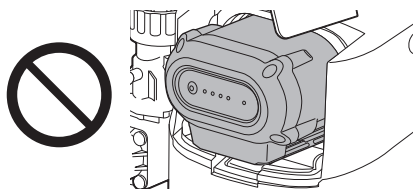
2.1 取り付け

- 1) バッテリーフタを開ける
- 2) バッテリーを「カチッ」と音がするまで押し込む

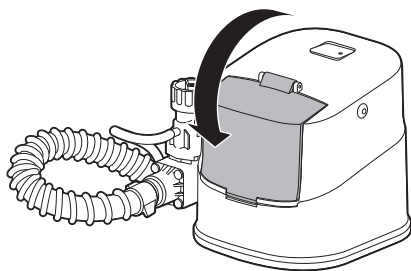


ここがポイント！

- 奥まで押し込まれていないとバッテリーフタが閉まりません。



- 3) バッテリーフタを閉める

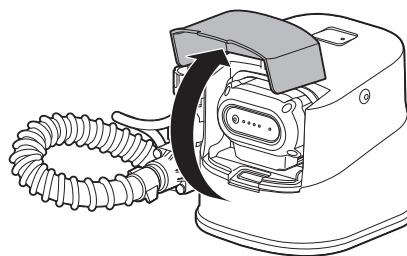


ここがポイント！

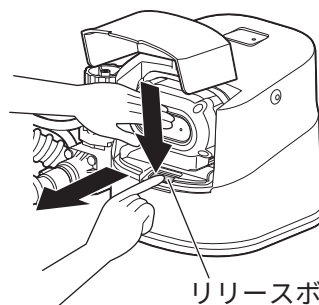
- 水の浸入など防止のため、バッテリーフタは必ず閉めてください。

2.2 取り外し

- 1) バッテリーフタを開ける



- 2) リリースボタンを押して、バッテリーを取り外す



ここがポイント！

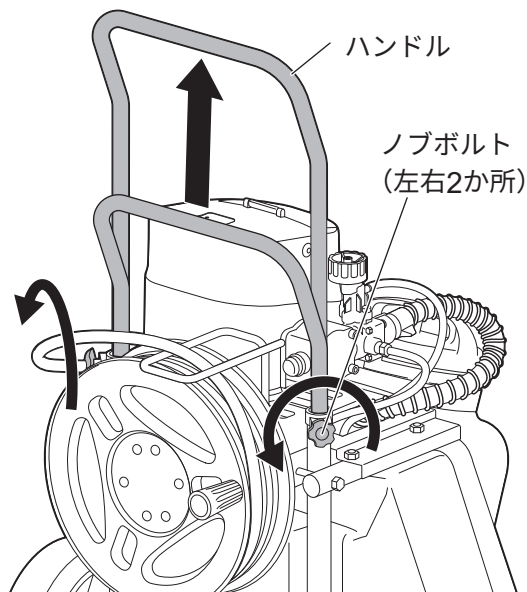
- バッテリーが飛び出すおそれがあるためバッテリーに手を添えながらリリースボタンを押してください。

- 3) バッテリーフタを閉める

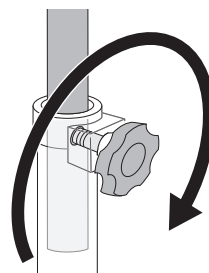
組み立て

1. ハンドルの高さ調節

- 1) キャリーのノブボルトを緩めて、ハンドルを上げる

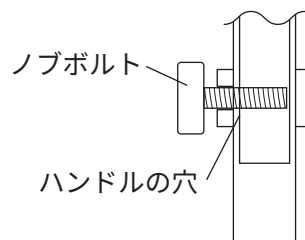


- 2) ハンドルの穴にノブボルトを通して固定する

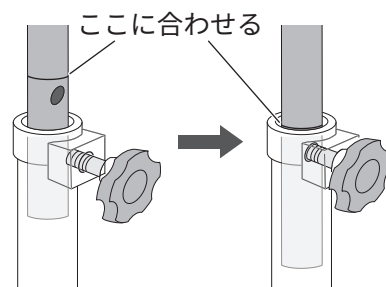


ここがポイント！

- ノブボルトは必ずハンドルの穴に入れて固定してください。ハンドルが抜け事故の原因になります。



- ハンドルの位置決めラインに合わせると自然に穴が合います。



はじめに

準備

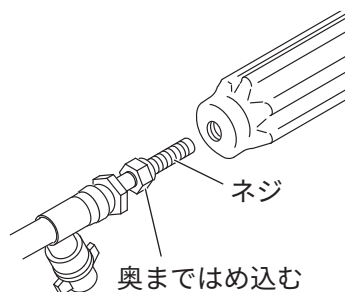
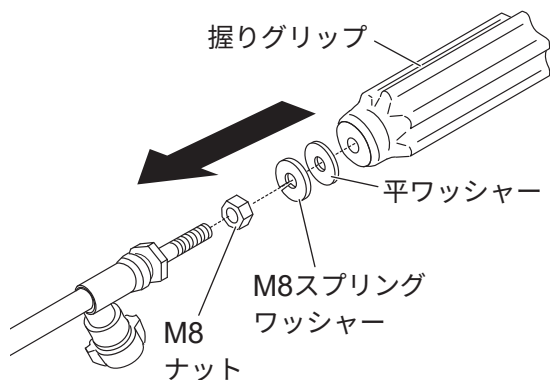
使用方法

保守・点検

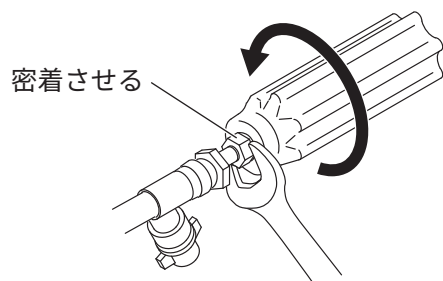
その他

2. ノズルの組み立て

- 1) ナットとワッシャーをノズルのネジの奥まではめ込む



- 2) M8ナットを工具で固定して、握りグリップのネジの一番奥まで締め付ける
M8ナットと握りグリップを密着させてください。

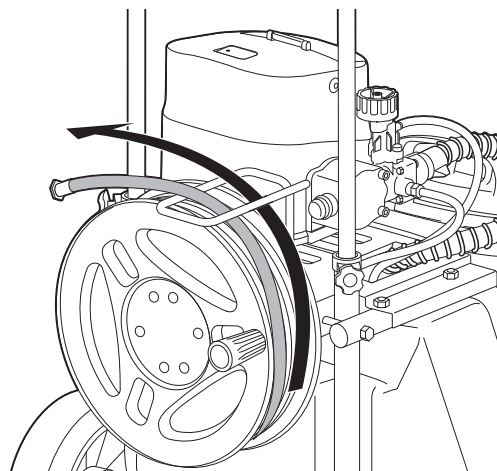


ここがポイント！

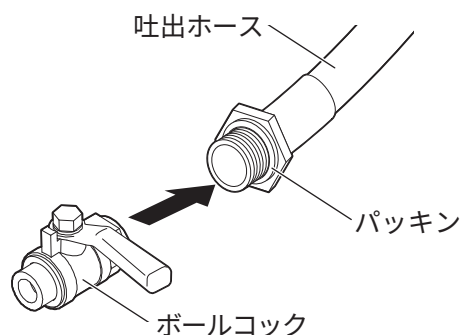
- 締め過ぎはグリップ割れの原因になります。

3. ノズルの取り付け

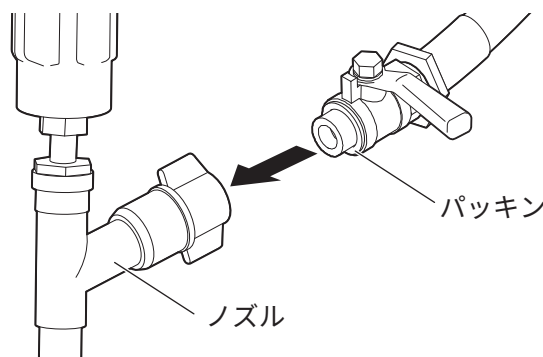
- 1) ホースガイドの下から吐出ホースを通す



- 2) 吐出ホースにボールコックを取り付ける



- 3) ノズルにボールコックを取り付ける



ここがポイント！

- 吐出ホース、ボールコックにパッキンが付いているか確認してください。
- 工具でしっかり締め付けてください。

薬液を入れる

作業前に必ず6ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 薬液について

薬品の取扱説明書をよくお読みのうえ、記載されている倍率に従い薬品を正しく希釈してください。

■ 主要薬品適合一覧

乳剤（薬剤を水で薄めて使用）		水和剤（粉末の薬を水で溶かして使用）	
●殺虫剤	スミチオン乳剤	●殺虫剤	オルトラン水和剤
	マラソン乳剤		ロプラール水和剤
	ディスペレックス（DFP）乳剤		モレスタン水和剤
	マシン油乳剤		DMTP水和剤
	ダイアジノン乳剤		
	DMTP乳剤	●殺菌剤	ベントレート水和剤
	PAP乳剤		マンネブダイセンM水和剤
●殺菌剤	ポリオキシシン乳剤		ダイセン水和剤
	マイシン乳剤		ダコニール（TPN）水和剤
	サプロール乳剤		
	ダイセステンレス乳剤		
	石灰硫黄合剤		



ここがポイント！

- ・薬剤メーカー指定の希釈倍率を必ず守ってください。
- ・使用方法を誤るとホースや部品が変色や変形することがあります。
- ・一部の薬剤は故障の原因になるばかりではなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ・ケルセン水和剤（殺ダニ剤）は使用しないでください。
薬剤が固まり故障の原因になります。
- ・水和剤、石灰硫黄剤は製品寿命を短くするおそれがあります。
バケツなどでよく溶かし、使用中も沈殿しないように攪拌してください。
- ・使用後は速やかに水洗いをしてください。
（薬液をタンクの中に残さない。ホース、ノズルの中も洗浄する。）

薬液を入れる

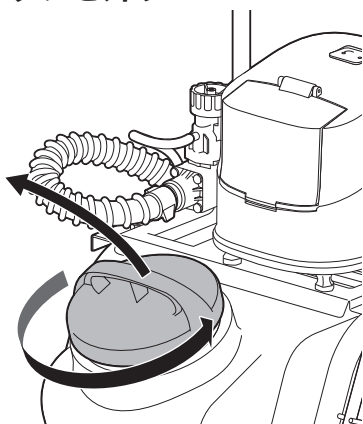
2. 薬液の入れかた



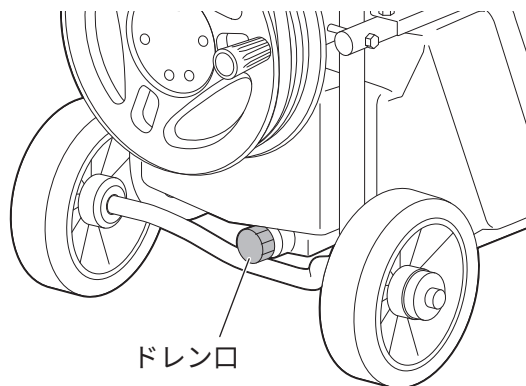
ここがポイント！

- バッテリーは取り外してください。

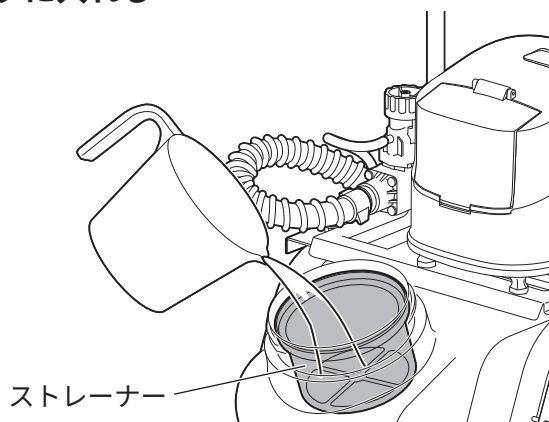
1) タンクキャップを外す



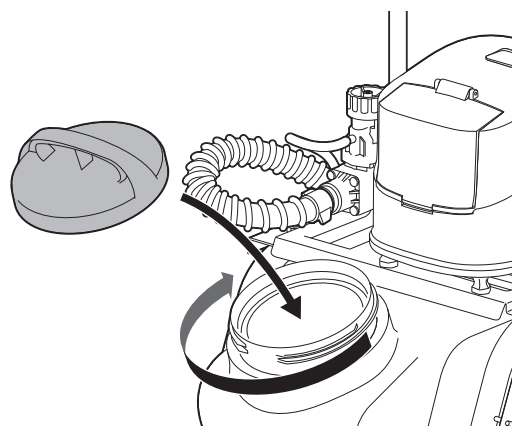
2) ドレン口のキャップがしっかりと閉まっていることを確認する



3) 希釈した薬液をストレーナーを通してタンクに入れる



4) タンクキャップをしっかり閉める



移動する

本機の移動や運搬時には、次のことを必ず守ってください。

- 電源を切る
- バッテリーを取り外す
- 吐出ホースを巻き取る

1. キャリーの使用方法

1) ハンドルを持ち引く

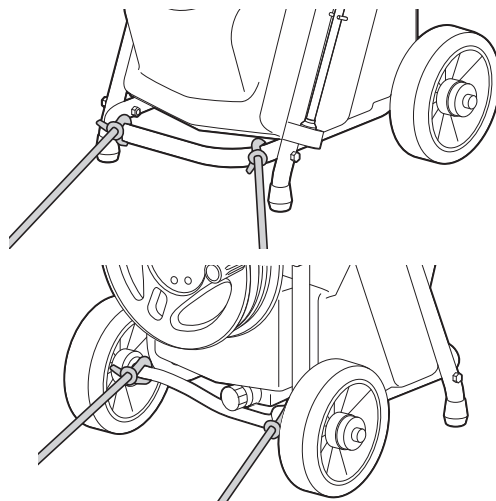


ここがポイント！

- 段差を走行するときは、本機が転倒しないよう充分注意してください。
- ハンドルに無理な力がかからないようにしてください。

2. 車両での運搬

1) 平坦な場所に積載して、ロープなどでしっかり固定する



ここがポイント！

- 運搬時、バッテリーがボルトや金属工具に触れないようにしてください。

作業前点検

作業前に必ず6ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 作業前点検

作業する前に、次の点検を必ず行ってください。点検を怠ると、薬液が漏れて思わぬ事故につながります。

部位	項目
各部	ネジ、ナット類の緩み点検
	割れ、欠け、変形、摩耗、損傷などの点検
ホース	破れ、穴、接続部の緩み
薬液タンク	キャップの緩み
操作部	作業確認



ここがポイント！

風向きや周囲の安全を確認して作業してください。

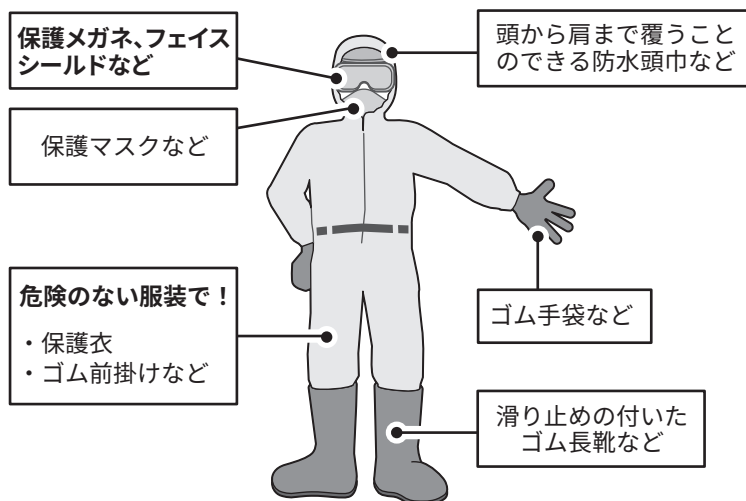
- 川・池・沼などを汚染しないようにする
- 人・家畜に害のないようにする
- 作業者に薬がかからないようにする

2. 服装について

作業中は農薬の付着や吸入のおそれがあります。次の安全な防除用の服装で行ってください。

※保護マスクなどは付属していません。別途ご用意ください。

■ 作業は防除用の服装で！



噴霧する

作業前に必ず6ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 噴霧

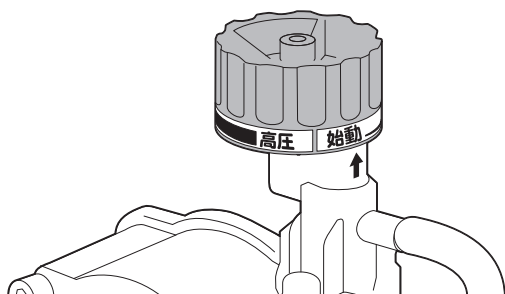


ここがポイント！

- 噴霧前にバッテリーフタが閉まっていることを確認する

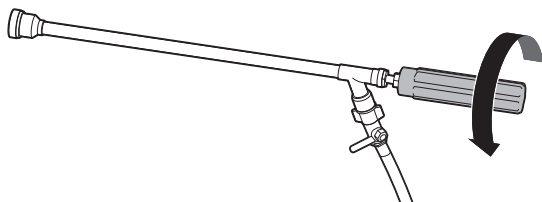
1) ホースの届く範囲を確認して、本機を平坦な場所に置く

2) 調圧ノブを「始動」にする



3) バッテリーを取り付ける

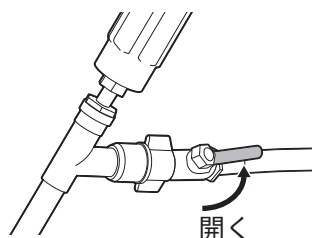
4) 握りグリップを左にいっぱい回して緩める
直射状態にします。



ここがポイント！

- 握りグリップを緩めていないと吸水しない場合があります。

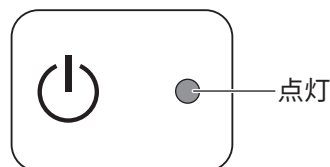
5) ボールコックを開く



ここがポイント！

- ボールコックのネジが緩んでいることを確認してください。ネジが緩んでいないと吸水しない場合があります。

6) ノズルをしっかりと持ち、電源ボタンを押す
電源ランプが緑点灯します。



■ ランプ表示について

緑点滅 	バッテリー残量が少ない
赤点滅 	バッテリー残量なし 電源ボタンを押して電源を切る (電源を切り忘れても約5分後に自動的に電源が切れ消灯します)
赤点灯 	モーターの温度異常 電源ボタンを押して電源を切り、約15～20分後に再度電源を入れる



ここがポイント！

- 電源ボタンを押すとすぐに噴霧する可能性があります。ノズルの先を人や動物、本機に向けないでください。

噴霧する

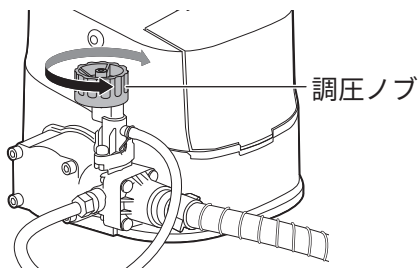
7) 水（薬液）が出るのを確認できたら、ボールコックを閉じる



ここがポイント！

- 約1分経過してもノズルから水（薬液）が出ない場合は、電源を切ってください。空運転を続けるとポンプ故障の原因になります。（30ページ「故障かな？」と思ったら（故障と処置）」参照）

8) 調圧ノブで圧力を調節する



9) 作業場所へ移動する

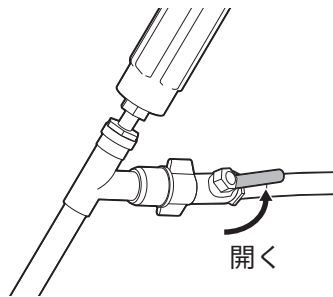
移動前に、吐出ホースを必要量引き出しておいてください。



ここがポイント！

- 強く引かないでください。本機が転倒するおそれがあります。

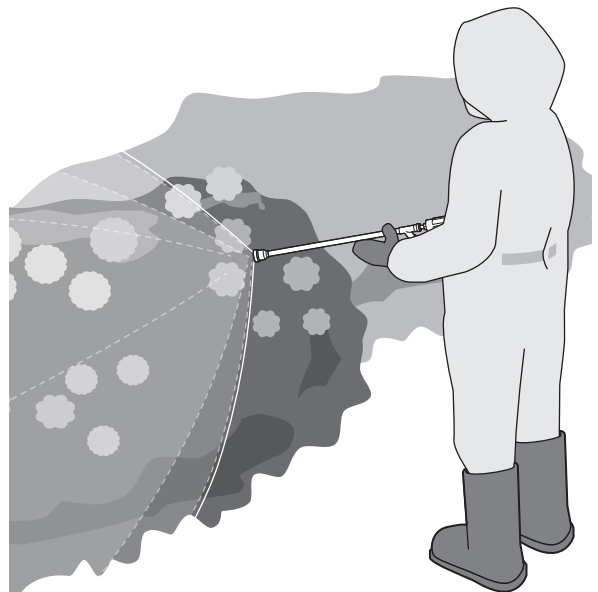
10) ボールコックを開く



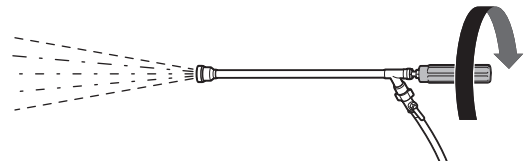
11) 噴霧の調整をする

■ 広範囲に噴霧するとき

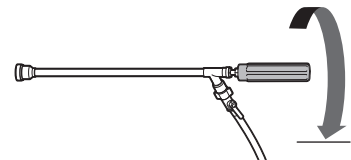
握りグリップを右に回します。



- 握りグリップを右に締めていくと、直射から噴霧になります。



- 握りグリップを右にいっぱい回すと、締め切り状態になります。

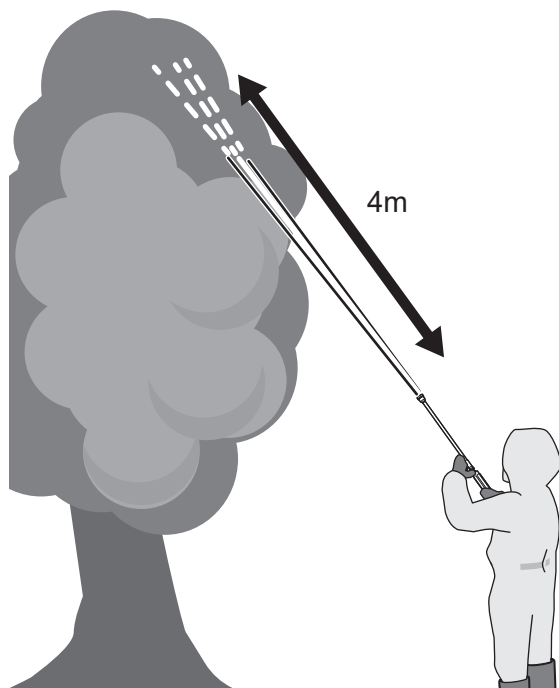


ここがポイント！

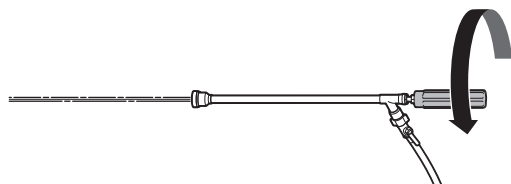
- 吐出が止まったら回すのをやめてください。無理に回すと故障の原因になります。

噴霧する

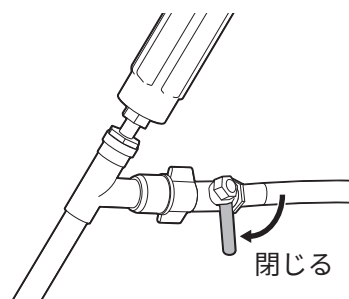
- 遠くや高い木などに噴霧するとき
握りグリップを左に回します。



- 握りグリップを左に緩めていくと、噴霧から直射になります。

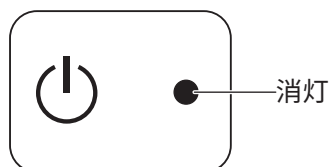


12) 作業が終わったら、ボールコックを閉じる



13) 電源ボタンを押して、電源を切る

電源ランプが消えます。



14) バッテリーを取り外す



ここがポイント！

- 作業が終わったら、器具や着衣類をすべてよく洗い、作業者もすぐに入浴するか、手足、顔などを石けんでよく洗いうがいをしてください。

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

お手入れと保管

1. お手入れ

「水洗い」や「液抜き」を実施せずに故障した場合は、保証期間中でも保証の対象外となります。

1.1 水洗い



ここがポイント！

- 水洗いはタンクの中に清水を充分に入れ、噴霧させてください。ホース・ポンプも充分水を通して完全に洗浄するようにしてください。

1) タンク内に残った薬剤を排出する

ドレン口のキャップを開いて排出してください。

2) タンク内を水洗いする

3) 清水（約10 L）をタンクに入れる

4) 調圧ノブを「高圧」～「中圧」にする

5) 2～3分噴霧する

ポンプやノズル内の薬剤を洗い流します。



ここがポイント！

- ポンプやノズル内に残った薬剤は固まり、パッキンの劣化など故障の原因になります。

1.2 水抜き



ここがポイント！

- タンクやノズル、ホース内に水が残っていると凍結によるポンプ故障の原因になります。

■ タンク

1) タンク内に残った水を排出する

ドレン口のキャップを開いて排出してください。

2) 調圧ノブを「始動」にする

3) 噴霧する

4) ノズルから水が出なくなったら電源を切る



ここがポイント！

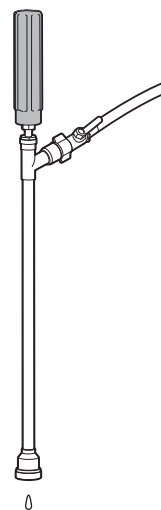
- ノズルから水が出なくなったらすぐに電源を切ってください。空運転は故障の原因になります。
- 水は完全に抜いてください。ストレーナー小がさびる原因になります。

■ ノズル

1) ボールコックを開く

2) 握りグリップを左に回し直射状態にする

3) 水滴が落ちなくなるまで噴口を下に向ける



お手入れと保管

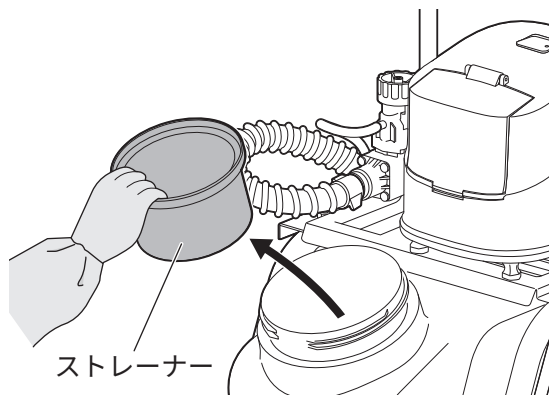
1.3 ストレーナー

タンク内部やストレーナーは常にきれいな状態を保ち、必ず付属のストレーナーを取り付けてご使用ください。

ポンプが砂や異物を吸い込むと、吐出量・圧力の低下や吸水しないなど、性能に悪影響を及ぼします。

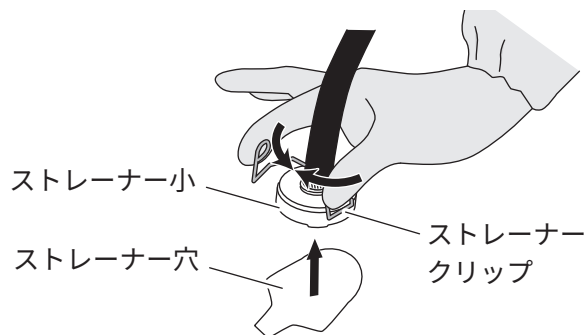
■ ストレーナー

外して水洗いしてください。



■ ストレーナー小

ストレーナークリップを内側に寄せてタンクのストレーナー穴から取り外します。水洗いし、元通りに取り付けてください。



ここがポイント！

- ストレーナーがしっかりと取り付けられていないと、吸入不良の原因になります。
- ストレーナー小は取り外すこともできます。(29ページ「4. ストレーナー小の取り外し」参照)

1.4 拭き取り

1) 付着した汚れや水分を拭き取る

水分が残っているとさびや故障の原因になります。

1.5 バッテリー

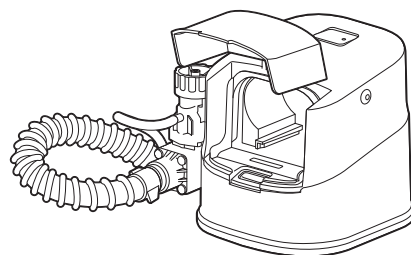
お手入れ後はバッテリーを充電してください。バッテリーの劣化を防ぎます。

2. 保管

1) 「お手入れ」をすべて行う

(前項「1. お手入れ」参照)

2) 電源が切れていること、バッテリーが取り外されていることを確認する



3) 次のような場所を避けて保管する

- 乳幼児、子どもの手の届く所や簡単に持ち出せる所
- 熱源のそばや、真夏の閉め切った自動車内など高温になる所
- 湿気の多い所
- 温度や湿度の急変する所
- 直射日光の当たる所
- 揮発性物質の置いてある所



ここがポイント！

- ハンドルで本機をぶら下げないでください。また、ハンドルに重いものを下げないでください。

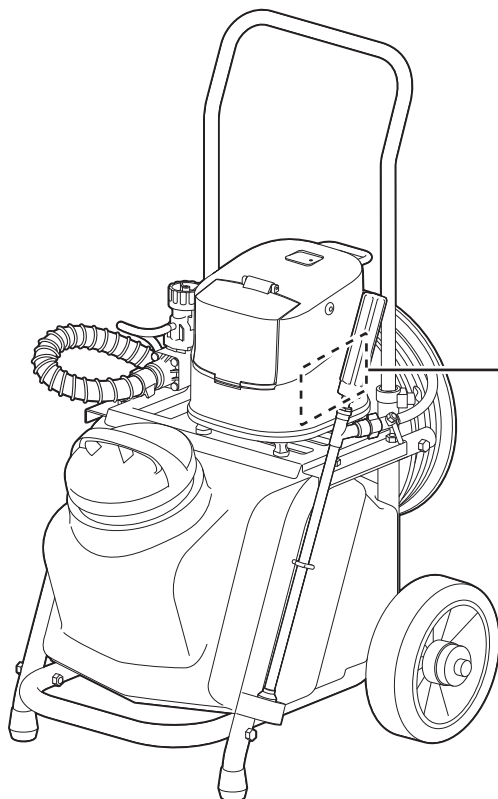
3. 長期保管

バッテリー保護のため、バッテリーを充電してから保管してください。また、その後も1年に1回は充電してください。

整備

1. ラベル

- ラベルははっきり見えるように、常にきれいに保ってください。
- ラベルが汚れて見えなくなった場合や、紛失した場合には、購入店へ注文し貼り替えてください。またラベルが貼られている部品を交換する場合、ラベルも新しいものに交換してください。



SMS-360RT25 充電式噴霧器

⚠ 警告 使用前に取扱説明書を必ずよく読む

- 使用方法
- 1) 調圧ノブを「始動」にする
 - 2) 電源ボタンを押す
 - 3) 調圧ノブで圧力を調整する

最高圧力：3.5 MPa (35 kgf/cm²)

最大吸水量：2.8 L/min

定格電流：5.0 A

出力：250 W

製 番：

SMS-360RT25-AAA-0



4 971770 454415

株式会社 工進

MADE IN CHINA



危険

- 農業以外の薬剤は使用しない
- 使用する薬剤の取扱説明書をよく読み、正しく使用する
- 薬液は人体、家畜にかからないように、また川、池、沼などを汚染しないように、風向きや周囲の状況を充分確認のうえ使用する

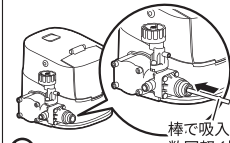


警告

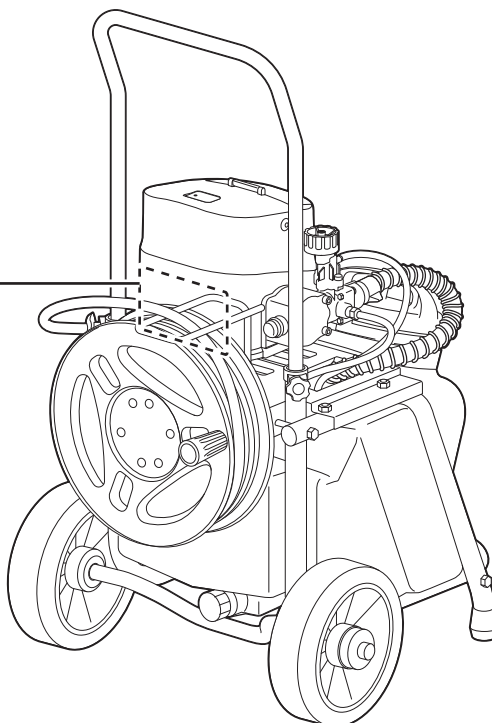
- 作業に適した服装で作業する
- 使用後は、タンク内の薬液を抜きよく洗浄する
- 使用しない本機は、安全に屋内に保管する
- 直射日光の当たらない場所に保管する

吸入しない場合は

吸入ホースを外し吸入口より棒（ドライバーなど）をさして中の弁を数回軽く押してください。（弁が約3mm動くと正常です。）



棒で吸入弁を数回軽く押す
強く押さない
破損のおそれがあります。

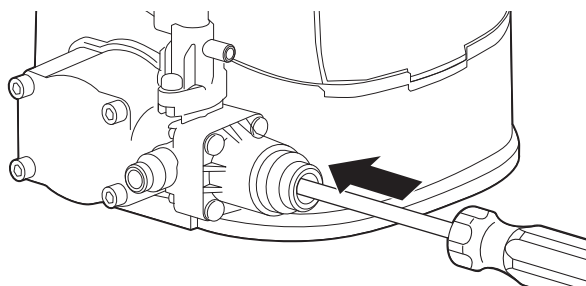


2. 吸水弁の固着の処置

1) 吸入ホースを外す

2) 吸入口より棒（ドライバーなど）をさして、中の弁を数回軽く押す

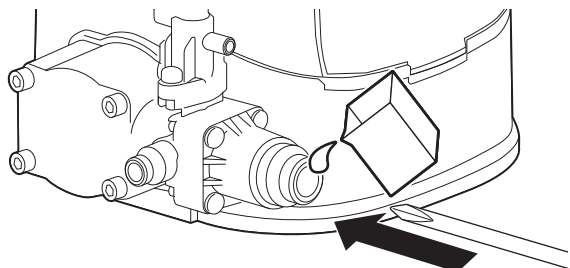
逆止弁となっており、約3 mm弁が動くと正常です。



ここがポイント！

- 強く押すと破損しますのでご注意ください。

2)の手順でも作動しない場合は、少量の水（2～3 cc）を吸入口に入れて、吸入弁を棒で軽く押す。

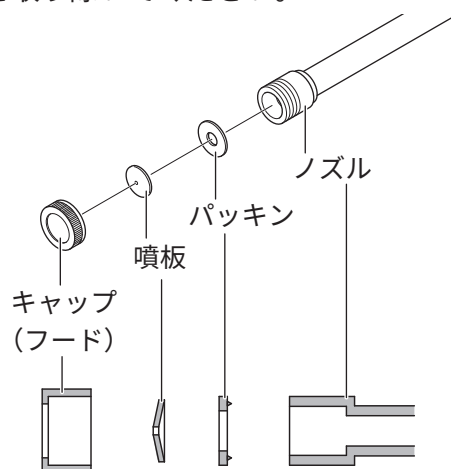


ここがポイント！

- モーターに水がかからないようにご注意ください。

3. 噴口穴の詰まり処置

ノズルの噴口を分解して、つまようじなどで詰まりを取り除いてください。

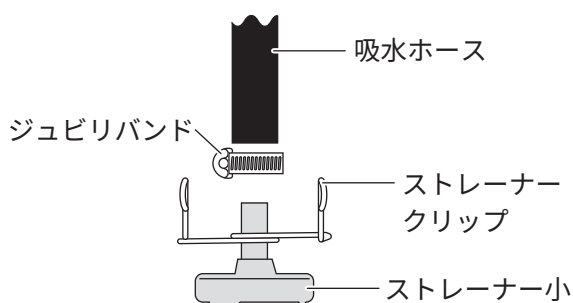


ここがポイント！

- 分解時に部品を紛失しないようにご注意ください。
- 組み立て時は部品の向きにご確認ください。

4. ストレーナー小の取り外し

ジュビリバンドを緩めて取り外してください。



「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

点検以外の分解・修理は絶対にしないでください。

修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご依頼ください。

■ 本機

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
吸水しない 吸入ホースを外して 吸入口に手を当てた状態 で運転させ、手が吸い付け られるかを確認する	吸水弁が固着している	棒状のもので吸水弁を軽く押す	29
	吐出ホース内に圧力が残っている	握りグリップを緩め、圧力を抜く	23
	ストレーナーにゴミが詰まっている	ゴミを取り除く	27
	噴口穴が詰まっている	つまようじなどで穴の詰まりを取り除く	29
	吸入ホース接続部のパッキンを紛失している	パッキンの有無を確認し、紛失や破損していれば交換する	35
	吸入ホース接続ネジが緩んでいる	接続部ネジを締め付ける	—
	吐出弁や吸入弁にゴミが詰まっている、消耗部品（パッキン類、ピストン部品、オイルシール、バルブクミ、スプリング類、Oリング類、吐出ホース等）が摩耗、破損している	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
噴霧状態が悪い 圧力が上がらない	噴口穴が詰まっている	つまようじなどで穴の詰まりを取り除く	29
	噴口穴が摩耗している	噴板を交換する	35
	調圧ノブが「始動」や「低圧」側にセットされている	調圧ノブを「中圧」「高圧」に合わせる	24
	吐出弁や吸入弁が摩耗している	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
モーターは回るが 噴霧しない	ノズルの組立不具合	ノズルを組み立て直し、工具などで適度な力で固定させる	18
赤ランプが点灯している	モーターの温度異常	電源ボタンを押して電源を切り、約15～20分後に再度電源を入れる 上記方法で動かなければ本体の故障が考えられます。本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	23

パッキン類、ピストン部品、オイルシール、バルブクミ、スプリング類、Oリング類、吐出ホースなどは消耗部品ですので、保証期間内でも有償修理となります。

交換の目安は100時間ですが、薬剤の種類により寿命が短くなることがあります。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

■ バッテリー

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
満充電しても バッテリー残量 がいつもより早 くなくなる	気温が低く、バッテリーの温度が低 すぎる	バッテリー温度が5～40℃の間 になる環境で充電する (推奨：10～30℃)	14
	充放電を繰り返し、バッテリーが劣 化した	新しいバッテリーに交換する	35
充電に時間がか かる	バッテリーの温度が低い	バッテリー温度が低いと充電しにくい ことがあるため、5～40℃の間になる 環境で充電する（推奨：10～30℃）	14
	バッテリー保護機能が働いている	そのまま充電を続ける	15
充電ができない： 充電器のランプ が緑点滅する	本機またはバッテリーの温度が高い (使用状況、または炎天下の自動車 内に保管したことなどによる)	本機およびバッテリーを風通しの良 い日陰などに置き冷ます (水にぬらさない)	14
充電ができない： 充電器のランプ が緑点灯のまま	バッテリーが充電器の奥までしっか りさし込まれていない	奥までしっかりさし込む	16
充電ができない： 充電器のランプ が消灯のまま	充電器の電源プラグが奥までしっか りさし込まれていない	奥までしっかりさし込む	16
	バッテリーまたは充電器が破損して いる ※	お客様では修理せずに、本誌裏表紙 に記載の「工進修理受付窓口」へご相 談ください	—
充電ができない： 充電器のランプ が赤点滅する	バッテリー過放電、故障	お客様では修理せずに、本誌裏表紙 に記載の「工進修理受付窓口」へご相 談ください	—

※ 破損の原因になる例

炎天下の自動車内など、著しい高温または低温にさらした／金属などが端子に触れた／水または火、揮発性の物質などに触れた／落下による衝撃／液漏れなど。

仕様

1. 主な仕様

機種名		SMS-360RT25
製品名		充電式噴霧器
用途		園芸用・農業用薬剤の散布または散水
ポンプ	型式	水平一連差動ピストン式
	最大吸水量	2.8 L/min
	吐出量	2.0 L/min (2.0 MPa時)
	最高圧力	締め切り時：3.5 MPa (35 kgf/cm ²)
モーター	型式	ブラシモーター
	定格電圧	DC 36 V
	出力	250 W
	定格電流	5.0 A
	絶縁種類	E 種
ノズル		噴霧・直射自在調整式
吐出ホースの長さ		20 m (リール付)
タンク容量		25 L
運転時間		約 30 分 ^{※1} (2個使用時 約 60 分)
使用環境温度		5～40 °C
製品寸法		幅 約 500×奥行 約 600×高さ 約 640～900 mm
製品重量		18.3 kg (バッテリーなど付属品を含む)

2. バッテリー

機種名	PA-334
製品名	36 V バッテリー (2.5 Ah)
種類	リチウムイオンバッテリー
充電時間	約 90 分 ^{※1}

※1 2.5 Ah バッテリー、1 充電あたり。状況により異なります。

3. 充電器

機種名	KBC-360
製品名	バッテリーチャージャー36 V
入力電圧※2	AC 100 V
入力周波数	50 - 60 Hz
入力電力	100 W
出力電圧	DC 40 V
出力電流	DC 2.0 A
使用環境温度	5~40 °C

※2 昇圧器などのトランス類を使用したり、直流電源やエンジン発電機では使用したりしないでください。
発熱・火災のおそれがあります。

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。
また、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧いただけます。

1. ご注文時のお願い

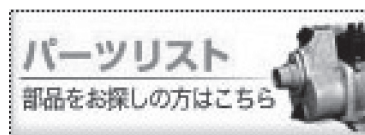
部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

2. パーツ表・価格

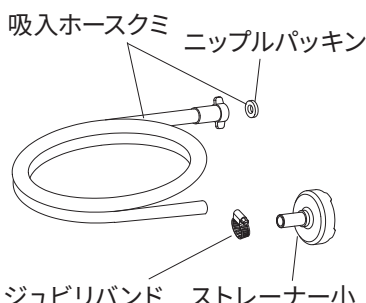
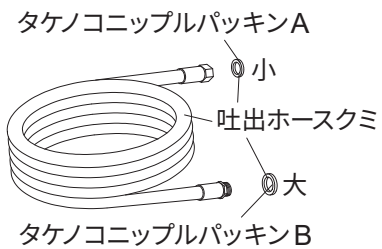
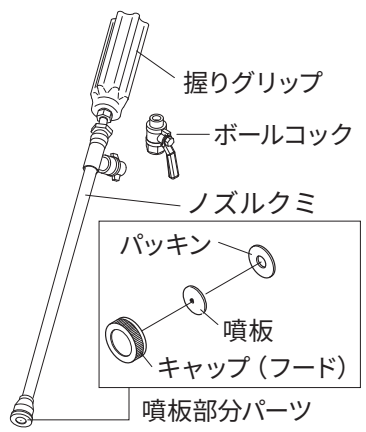
1) <https://www.koshin-ltd.co.jp>へアクセス



2) トップページ「パーツリスト」バナーをクリック



3. 主なパーツ

名称		機種名・JAN	備考
36 V バッテリー (2.5 Ah)		機種名：PA-334 JAN：4971770-560178	専用充電器：PA-335、KBC-360
36 V バッテリー (5.0 Ah)		機種名：PA-413 JAN：4971770-560598	専用充電器：PA-335、KBC-360
36 V 急速充電器		機種名：PA-335 JAN：4971770-560185	—
バッテリーチャージャー36 V		機種名：KBC-360 JAN：4971770-561823	—
吸入ホース	吸入ホースクミ (φ10×0.7 m) (吸入ホースパッキン付)	0457006	
	吸入ホースパッキン	0451094	
	ストレーナー小	0451803	
	ジュビリバンドφ20	0451859	
余水ホース	余水ホース (φ7×0.8 m)	0458316	
吐出ホース	吐出ホースクミ (φ6×20 m) (タケノコニップルパッキンA、B付)	0458420	
	タケノコニップルパッキンA (小)	0450949	
	タケノコニップルパッキンB (大)	0450950	
ノズルパイプ	ノズルクミ (54 cm)	機種名：DP-152 JAN：4971770-106154	
	キャップ (フード)	機種名：PA-300 JAN：4971770-108073	
	ノズル板 (φ1.2)	機種名：PA-301 JAN：4971770-108080	
	ノズル板パッキン	機種名：PA-299 JAN：4971770-108066	
	握りグリップ	0452222	
	ボールコック G (PF) 1/4	0452136	

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

KOSHIN

保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機 種	充電式噴霧器 SMS-360RT25		※お買い上げ日 年 月 日	
保 証 期 間	お買い上げ日より1年間(ただし、1年以内でも累計使用時間200時間を超えるものは除く)		※購入店	
お 客 様	※お名前	〒	住所	〒
	※ご住所		店名	
	電話 ()		電話 ()	

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
- 取扱説明書に記載の用途以外の目的に使用による故障または損傷。
- 本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
- 本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
- 同梱付属品、消耗品の交換。
- 車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。
- 保証期間内でも次のものは修理および補償いたしかねます。
 - 〈イ〉機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
- 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 **工進** 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書)貼付位置

お問い合わせ

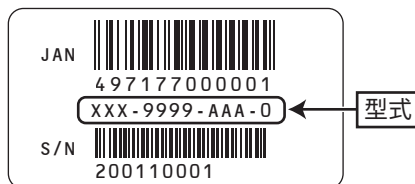
【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■製品の修理に関するお問い合わせは.....工進修理受付窓口へ

保証期間経過後の修理などについてもご相談ください。

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

■製品に関するお問い合わせは.....お客様相談窓口へ

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

Q&A
Eメール お客様サポートページ
Eメール pump@koshin-ltd.co.jp



電話 **0120-075-540** キョウトのコーシン
平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。